

12月15日 支える言葉

ある学校でのこと。私が転勤することが決まり挨拶をしていると、教頭先生が私の手を握り「あなたとはもっと一緒に仕事がしたかった。次の学校でも頑張ってください」とねぎらいの言葉をかけてくださった。唐突だったので不思議な感じがしたけれど、「私のことを認めてくださっていたんだ」と思い、とても嬉しかった。

私は格好をつけるわけではないが、誰かの下についてその人のために働くという柄ではない。自分の思う通りに、常に我流を貫いてきた。ある保護者から「先生の自由なところがいい」と言われたこともある。管理職や保護者の評価なんてどうでもいい。生徒さえ自分のことを理解してくれていればいいと思ってきたが、このときの教頭先生と保護者の言葉は、未だに私の宝物である。

言葉は簡単に人を傷つける。けれども人を励ましたり勇気づけたりするのもまた言葉である。どうせ使うなら、人を支える言葉を使いたいと思う。

